

# 平成20年度第2回奈良市子ども読書活動推進委員会会議録

日時 平成20年10月21日（火）14時～

場所 奈良市庁舎中央棟6階 第2研修室

## 議事進行

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 新委員紹介
- 4 平成20年度上半期事業報告及び下半期事業計画等について
- 5 意見交換
- 6 その他
- 7 閉会



## 《議事録》

### 1 開会

### 2 委員長あいさつ（松川委員長）

本日の会議は大変意義のあるものだと思います。年度半ばで、今どのように進んでいるかを報告し合い、後半どのように進めていくかを考える中間点です。お互いが報告を共有して、よいアイデアが生まれるということを期待します。



### 3 新委員紹介

（奈良市PTA連合会副会長 市川光代氏が委員に）

奈良市PTA連合会副会長で大安寺小学校PTA会長の市川光代です。どうぞよろしくお願ひします。

### 4 平成20年度上半期事業内容及び下半期計画などについて→各課からの報告

#### 【教育総務課】

子ども読書活動推進計画に基づく事業として、昨年度に市立小中学校の図書標準を達成するための業務管理目標を設定。平成23年度までに達成する予定。今年度は学校図書の充足率を85%と定めている。達成率の低い学校に、重点的に図書に要する予算を配当。また、一般の消耗品費を合わせて学校の方に配当していたが、図書消耗品費という形を明確に打ち出し、適切な予算執行に努めていただいている。

充足率…小学校 昨年度末84.5% → 本年度上半期86.9% （すでに目標値を達成）

中学校 昨年度末78.1% → 本年度上半期80.5%

しかし、学校間のばらつきがあり、まだまだ十分であるとは言えない。

小学校最高179.6% 最低40.7%

中学校最高115.2% 最低49.9%

新規図書の購入以外にも、PTAや地域などの協力を得ながら、家庭で眠っている図書の掘り出し、破損した図書の補修も考え、さまざまな手法で下半期も学校図書の充実に努めたい。

幼稚園については具体的な目標値の設定はないが、新規図書の購入や既存図書の活用、図書の配列の工夫など、園児の目線に立って読書環境の改善に努めたい。

#### 【学校教育課】

No. 1 「全校一斉読書やおはなし会等の読書活動の充実と、司書教諭に対する支援」について。現在、文部科学省の「図書館の現状に関する調査」とともに、現在調査中。結果をまとめ、次回に報告。司書教諭に対する支援については、実践事例集No. 2に、学校図書館支援センター研究協力校での様子を掲載参照。書架の整理や図書の修理などが行き届き、学校図書館の環境整備が進んでいる例。実践事例No. 5に、学校図書館支援センター事業で、各学校に配置している図書館協力員の連絡会の様子を掲載。月1回の連絡会で、各校の図書館の状況やお互いの活動について情報交換。

No. 2 「文部科学省の学校図書館標準に対する達成率の向上を図るための取組」について、2つ

の取組。1つは、市立図書館から除籍本を学校に譲渡する事業。今日現在で、7小学校に対し、1000冊以上の図書を市立図書館から譲渡。3月までに、あと5校に譲渡する予定。2つめは、地域・家庭から学校へ本の寄贈を募るシステムについて、「学校図書館支援センター事業」の研究協力校5校において調査研究中。5校で約800冊の寄贈。

№. 3「蔵書目録のデータベース化や情報化システムの構築、LAN整備等の推進」について。予算化の面で、なかなか進んでいない現状。

№. 4「児童生徒自身による読書活動の活性化と、中学校での職場体験の推進」について。№. 1と同様、現在調査中

№. 5「市立図書館との連携、保護者・ボランティア団体等との連携・協力の推進」について。実践事例№. 3、実践事例№. 4参照。市立図書館から、職員の方が学校に出向いていただいたり、子どもたちが市立図書館へ行ったりする形の連携も進んでいる。学校図書館で使う貸出券と市立図書館の貸出券を共有化することも研究中。保護者・ボランティア団体等との連携・協力については、平成19年度市民企画事業として採択され、平成20年度に実施している「奈良の昔話を子どもに伝承する事業」で紙芝居を作成。

№. 6「教職員や保育士の研修の充実と、園児の多様な興味に対応できる読書活動の推進」について。実践事例№. 6参照。学校図書館支援センタースタッフが学校に出向いて、講習を実施。

№. 7「学校輝きプラン事業を活用した読書活動の推進」について。現状を調査中。

№. 8「学校図書館支援センター事業」について。別添「第7回奈良市教育改革推進フォーラムの概要」参照。

## 【生涯学習課】



№. 1「絵本ギャラリーin 奈良」の事業補助について。奈良県下に在住する親子に子どもたちが本と親しむ場として毎年、奈良教育大学で開催。今年も実行委員として参加。補助金を交付。約一万人の参加。市立図書館3館も本の貸出、ブックトークなどを実施。

№. 2「放課後子ども教室」について。放課後に教室の空き教室などを利用して、子どもたちの安全安心な活動拠点を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちと共に勉強やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で心豊かで健やかに成長する環境づくりを推進するという趣旨のもと、文部科学省の補助事業として、平成19年から開始。平成20年度上半期は平成19年度実施の4小学校区に加え、新たに3小学校区においても実施。お話会による絵本の読み聞かせや紙芝居、北部図書館の協力によるブックトークを実施。実践事例集P7参照。地域の方による読み聞かせや上級生による紙芝居の読み聞かせ等、絵本にふれ合いながら地域の方や異年齢の子どもたちが交流している。平成20年度下半期は、10月から残りの3小学校区でも放課後子ども教室が開始。その中にも読書活動を盛り込む予定。

P13公民館における読書活動について。子どもたちが小さなときから本に親しみ、親子で楽しむ時間を共有できる環境づくりを目的として、奈良子どもの本連絡会や地域のグループ等と連携し、乳幼児とその親を対象に、ストーリーテリングやパネルシアター、絵本の読み聞かせ、手遊び、言葉ゲームなどを公民館で実施。絵本の読み聞かせの仕方を説明するとともに、本のリストを配布。

## 【中央図書館】

№. 2 赤ちゃんに対する本の読み聞かせについて。7月から各図書館を会場として実施することになった。中央図書館では、月2回、0歳児から3歳児までを対象として、「ファーストブックと乳幼児お話の時間」を1時間半ずつ実施。お話やチラシの配布について、健康増進課や各出張所に協力いただいている。

№. 3 大人向けの読書会の実施について。読書週間中の行事として新たに「楽しい読書会」を実施する。

№. 4. 視聴覚室は週3回運営。子ども向けの映像を利用してもらっている。移動図書館は上半期で、102地域に出向いて、子どもを含む多くの方に利用していただいた。

№. 6 ヤングアダルトコーナーの充実。中・高校生などの利用者が増加。

№. 10 お話ボランティアの協力により、お話会を毎週水曜日と土曜日に開催。

№. 12 貸出文庫について。行財政改革に関連して、23年度から固定本を廃止し、自由選本のみとするとともに、その対象を移動図書館書庫の児童書に拡大することに向け、準備をする。

№. 13 ならまちに関する本のコーナーを設置。地域文化の継承の取組の一環とした。「良弁杉」紙芝居の活用。

№. 22 お話の勉強会と手作り絵本講習会を開催。

№. 27 夏休みお天気教室を開催。本を展示して参加。

実践事例集№. 1、市立図書館3館が一緒に取り組む。

実践事例集№. 2、連携相手の六郷小学校と離れた学校との取組。

実践事例集№. 3、奈良教育週間中の行事として、昨年12月に「ふれあいの絵本展」を開催。今年は「本の森へ行く」に名称変更。

実践事例集№. 4、4月23日に、「図書館と握手」を開催。



## 【西部図書館】

№. 1 ブックスタート事業について。火曜日から金曜日の午前中に実施。1日に2組程度の利用。

№. 2 自由図書の充実について。リクエスト本を中心に市民の希望に答えている。

№. 3 移動図書の充実について。利用者に喜ばれる本を選本。

№. 4 貸出図書の充実について。同上。

№. 5 ボランティアの活用について。実践事例12参照。お話会を月2回開催。季節に合わせた特別なお話会の開催も。鶴舞小学校と定期的にお話会を開催。絵本ギャラリー、おとぎ話大会等もボランティアの協力を得て開催。今年から多目的室を利用して、ボランティア団体が自主的に開催するお話会の開催。

№. 6 ボランティアの育成について。子どもの本を読む会・語る会との共催により、勉強会を開催し、ボランティアの育成に努めている。

№. 7 学校との連携について。実践事例№. 13参照。学校による図書館見学。3学校が団体貸出制度を利用。除籍本の譲渡。2か月ごとに6校に譲渡予定。学校図書館推進モデル校との推進。

№. 8 児童担当司書の育成について。職員の資質向上を図るため、職員2名を研修会に派遣。

## 【北部図書館】

№. 1 特別に支援を要する子どもの読書活動の支援について。視覚に障害のある方に対するサービスをボランティアにお願いしている。上半期、12回開催。延べ109人のボランティアが参加。養護学校から生徒を受け入れ。障害者に対するマルチメディアデイジーの政策が進行中。そのための研修会に参加。

№. 2 子どもが安全快適に利用できる図書館の整備、本の充実について。上半期2143冊の図書購入。昨年4267冊だったので、順調に進んでいる。

№. 3 児童サービス担当職員の養成、配置と充実について。研修会2講座に8回参加。マルチメディアデイジーへの研修会に3日参加。

№. 4 お話し会、講演会、展示会等行事の開催について。お話会の開催は3館同様に実施。今年度22回の計画で、上半期は12回の開催。0歳児から本に接する取組として、直接来館する方に実施。すべての0歳児対象。健康増進課の健康相談の場をとらえ、本に接することについて保健士から案内。上半期は、6回22組の参加。おとぎ話大会は全体として350人の参加。手作り絵本教室と協同して、84組の参加。

№. 5 職員の派遣による読書教育への支援について。右京幼稚園・小学校で活動。放課後児童活動の「右京っ子クラブ」に参加。上半期1回、下半期2回の予定。幼稚園・学校に対する本の貸出を9回実施。実践事例参照。

№. 6 他の機関が実施する事業への参加について。絵本ギャラリー、とび出す絵本展に参加。

№. 7、№. 8 ボランティアについて。ボランティア養成講座を下半期で実施予定。ネットワーク化については進んでいない状況。

## 【子育て課】

集いの広場週5回開催。去年は2か所、今年6月から3か所目を開設。それぞれの広場で読み聞かせを実施。当初計画を上回る報告。つどいの広場「ぷらんぷらん」においては、11月に講談社の移動図書館のイベントや他のボランティアとの連携を進めていく。つどいの広場「ノル」も連携を進めていく予定。

## 【保育課】

保育園での絵本の読み聞かせや貸出については定着してきた。出前絵本などの取組をとおして、地域への啓発や連携が推進できた。下半期はさらに充実させていきたい。

保育の中で、毎日絵本の読み聞かせを実施。保護者への絵本の貸出も実施。地域出前絵本は、保育園近くの公園へ絵本を持参して保育士が読み聞かせを行う事業。学校図書館や地域との連携について、

小学校の教師が絵本を持参し、読み聞かせをしたり、民生児童委員が誕生会に来て絵本の読み聞かせや紙芝居をしたりという交流事業を行っている。年間目標数値からみてもおおむね実施できた。

下半期の計画内容は上半期と同様。保育園の場所や規模により、事業展開について差があるのが課題。

## 【放課後児童施策課】

主な事業は図書室の解放、図書の貸出。実践事例集参照。児童館で絵本の読み聞かせや紙芝居。お話の会に貸し館として研修の場所を提供。コミック本購入した児童館では、中学生も図書室に足を運

ぶきっかけに。

### 【健康増進課】

中央保健センターで5カ月児を対象とした「ぱくぱく教室」で図書館からのメッセージを保護者に伝え、図書館の利用案内を配布。母子手帳交付時に案内を配布。上半期の評価はA。達成数値は9月末で12回、参加者は保護者363名、乳児328名、幼児13名。事業計画の修正点あり。平成19年度までは、7、8カ月乳幼児相談を実施し、図書館職員が乳幼児とその保護者に読み聞かせを行っていたが、平成20年度からは、7、8カ月乳幼児相談がなくなり、各月齢を対象とした教室に変更。

「ぱくぱく教室」では、育児支援情報を発信。参加者同士のなかまづくりのきっかけとなっている。会場で親子が本を手にする姿も見られる。親子が出かける場の一つとして図書館があることを紹介しているので、本をとおして親子のふれあいの大切さを親が感じている。

## 5 意見交換

### (松川委員長)

奈良市の子ども読書推進事業が立体的に、さまざまな課で実施されている。他の市に自慢してよい。自己評価や活動内容について、具体的な報告があった。実践事例集や「子どもが本を好きになる方法アイデア集」をふまえてご意見はありませんか。

### (小西委員)

随分計画が進んでいる。「子どもが本を好きになる方法 アイデア集」について、子どもの本にかかわるボランティアの立場としては、気になる点がある。「装丁の綺麗な本を選んで蔵書にする」とあるが、地味な装丁の本の中にも、とても魅力的なものもある。また、「絵本に書いてあることだけでなく、興味を引くように、『わあ。』『あれえ、どうなるのかなあ?』『大変だねえ。』など適宜言葉を付け加えて、絵本の世界に子どもも参加させるようにする。」とあるが、不自然にするのはどうかと思う。読書感想文については、強制的に書かせるのは、本から遠ざけることにならないか。

「良弁杉」の紙芝居ができたことは感謝したい。アイデア集「勇気を与えるような物語を紹介する。」とあるが、特に昔話には、主人公が成功したり幸せになったりするものがあり、子どもたちは一番引き付けられる。ぜひ活用を。

### (松川委員長)

「子どもが本を好きになる方法 アイデア集」はこれからどのように活用するのか? カテゴリーを分けるとか、さらに使い勝手のよいようにするとよいと思うが、このアイデア集の背景は?

### (前川中央図書館長)

前回の委員会の中で、子どもが本を好きになるようなアイデアを考えたらよいというご意見があった。ワーキンググループ会議の中でも考えていこうということになった。このアイデア集については、具体的な改訂や活用方法などについてはまだ考えていない。

### (松川委員長)

素材が横たわっているなので、分類するなどしていくと、さらに価値あるものになる。その時に文言

や内容の吟味もしていくとよい。読書活動推進に参考になる。

### (花木委員)

各課が自分の課と子どもと読書がどうなっているのか、常に考えているのがすばらしい。神戸で全国図書館大会に参加。公共図書館と学校との連携や子ども読書推進計画をどう生かすかということについて話し合いがあった。市川市は学校図書館の進んだネットワークをもっている。学校とのネットワークを構築し始めて半世紀たつそうである。今は立派なものができ上がっているが、これまでに必要と思われることをその都度整えてきた結果であるということがよく分かった。

〈良かった点〉

- ・教育委員会が関わり、進めてきたネットワークであるということ。
- ・ネットワーク構築にかかわる人の年数が長かったということ。長く見つめる人の存在があった。
- ・学校がやりたくなるような連携であるということ。学校が必要とする本を市立図書館や他の学校から借りられるなど、本が集められる背景がある。

目的は、子どもが本を読みたくなるような環境をつくること。推進計画を上手にいかしていくことが大事。文部科学省からのパンフレットは分かりやすく、作ってある。活用を。

### (松川委員長)

ある会社の考え方で、「ビジョンがあるとミッションがはっきりする」という言葉がある。ビジョンとミッションを考えると、何に価値を置くのか（バリュー）が話題になる。それら3つがつながると、ひとつのうねりが生まれる。奈良市の取組もビジョンを持っている。それぞれのミッションを明確にしながらか、評価をし、今一度バリューが何なのかを確認することが大切。子どもたちが本好きになるということは、とりもなおさず、人として生きていく力をつけるという願い。そういう願いの中から、事例集やアイデア集が生まれているように思う。

### (市川委員)

各課の報告を興味深く聞いた。アイデア集もおもしろい。自分の家では、家族が集まる部屋に図鑑や地図、簡単に読める伝記を並べてある。クイズ番組やニュースを見ながら、図鑑や地図で答えを調べさせている。図鑑などに興味をもつとそこから世界が広がる。「この本を読みなさい。」ではなく、きっかけづくりとして、本が身近にあることが大事。私の本好きは母親がよく本を読んでいたから。ゲームよりも身近に本がある環境を。



### (松川教授)

環境づくりとともに、人が直接的、間接的に介在している。

### (松井委員)

19日(日)NHKドラマ「お米の涙」放映。日本の農村の原風景というべききれいな緑を映したシーン。稲作の衰退を食い止めようとするプロジェクトを中心に据えたドラマ。言葉によって紡ぎだ

される思いや意志にも、本来人としてもっているべき風景がある。人の手によって子どもたちに本を与えてあげるといふ働きかけを含め、言葉としての心の風景を育むという意味でもこの委員会の活動を推進していきたい。

#### (松川委員長)

視覚的風景と、言葉が紡ぐ風景の両方をもっているかどうか、その後の人生の豊かさに関係する。

#### (川畑委員)

奈良市小中学校教員対象に本の修理研修会。また、読み聞かせだけではなく、パネルシアターやエプロンシアター等の体験するコーナーにも興味をもって参加している。県立図書情報館とも連携している。

近畿大会で、学校に司書がいる学校の発表を聞き、うらやましく思う。図書室に人がいると子どもが集まってくる。司書がない環境の中でどうしたらよいか、考える機会となった。学級担任をもっていて図書館の仕事もしている現状で、ボランティアにも入ってもらうように、担当が窓口になって進めていく必要を感じる。中学校区で、学校支援本部事業が立ち上がり、ボランティアも増えている。ボランティアをどう育成していくのか。

#### (林 北部図書館主査)

学校や図書館だけでなく、全庁的な広がりをおこの委員会でもたせるよう、取り組んできた。今まで現場でやってきたことが花開いてきた。いろいろな場で、ボランティアの協力なしにはやっていけない。社会全体で、子どもたちを育てていこうとする環境ができつつある。

#### (箸尾生涯学習課課長補佐)

学校支援の仕事もしている。奈良市21校区で学校支援本部を準備している。まず取りかかりやすいのが、図書館の整備。ボランティアにそれをやらしてもらいつつ、図書室が第2の保健室となって、子どもが地域の方に悩みを言うということも。コミュニケーションをとりつつ、地域の方と子どもと一緒に図書の整備をやっていくという状況も生まれている。

#### (小西委員)

ボランティアができることと専門職ができることがある。ボランティアと受け入れる側が連携を取ることが大事。一緒に考えていきたい。大宮保育園が貸館として協力したり、図書館もボランティアのために、空いているスペースを提供したりすることに感謝したい。以前から活動しているボランティアと新しくできたボランティアと連携を図っていきたい。そのための支援をお願いしたい。

#### (松川委員長)

中間での評価。評価するときに数や量で評価できるものと、量ではなかなか評価できないものがある。質的な評価と量的な評価をバランスよく取り入れて評価・評定が進むとよい。「各コーナーの蔵書も充実し、利用者に定着しつつある。」「連携の輪の広がりが見えてきた。」というような文学的表現がある。何をもちて定着するのか、どのような状況になったときにそうコメントしてよいのか、振り返ってみると、より実効性のある事業計画になる。ここで出た意見を各課に持ち帰って、より良い

ものにしていくきっかけとしたい。下半期もよろしく。

## 6 その他

《修正の承認》

(松川委員長)

前回の委員会で承認された事業計画について、今回の報告書において4ヶ所訂正あり。(P14、P42、P60、P61) → 承認

《会議の公開について》 一別添資料参照一

(松川委員長)

「奈良市子ども読書活動推進委員会運営要領」について、事務局より報告。

(箸尾生涯学習課課長補佐)

平成20年4月1日に施行された奈良市情報公開条例第29条の規定に基づき、奈良市審議会等の会議については、原則公開となった。これに伴う「奈良市審議会等の会議の公開に関する指針」が示され、これに準拠した形で、お手元に配布している「奈良市子ども読書活動推進委員会運営要領」を事務局として作成したので、諮りたい。

(松川委員長)

質問は？当委員については公開としてよいか。 → (承認)

当委員会の運営要領については、本日付で施行し、次回の会議から公開とすることに決定。

## 7 閉会

(司会)

次回の委員会は、手もとの資料のとおり来年5月頃開催予定。事前に連絡するので、出席よろしく。

(終了)